



2025年4月14日

各 位

株式会社スーパーバリュー  
代表取締役執行役員社長 内田貴之  
(コード番号 3094)  
(問い合わせ先)  
常務取締役執行役員 中谷圭一  
電話 048-778-3222(代)

**特別損失の計上及び通期業績予想値と実績値との差異  
並びに剰余金の配当に関するお知らせ**

当社は、本日開催の取締役会において、下記のとおり特別損失の計上を行うとともに、2024年10月15日付で公表しました2025年2月期の通期業績予想値と本日公表の決算におきまして差異が生じたので、お知らせいたします。

また、2025年2月28日を基準日とする剰余金の配当を下記のとおり決議しました。なお、当社は会社法459条第1項各号に定める事項を取締役会決議により行う旨を定款に定めております。

記

1. 特別損失の計上について

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の保有する資産について将来の回収可能性を検討した結果、収益性の低下が見られたため店舗等に係る減損損失として13百万円、店舗閉店等に伴う固定資産除却損として12百万円及び店舗閉鎖損失として2億29百万円を特別損失にそれぞれ計上いたしました。

2. 2025年2月期通期業績予想値と実績値との差異について

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	67,057	△1,967	△1,892	△2,518	△198.72
今回実績 (B)	65,781	△2,756	△2,687	△2,790	△220.19
増減額 (B - A)	△1,275	△789	△795	△272	—
増減率 (%)	△1.9	—	—	—	—
(参考) 前期実績 (2024年2月期)	70,001	△2,226	△2,132	△2,257	△178.15

差異の理由

前回業績予想からの業績につきましては、食品スーパー（以下、「SM」という。）では、グロサリーを中心にEDLP（エブリデー・ロー・プライス）を展開しつつ、生鮮については、鮮度・品質の向上を中心により良い商品をより安く提供することで、集客及び売上高の回復に努めてまいりました。また、親会社である株式会社OICグループ（以下、「親会社」という。）の子会社で食品スーパーマーケットの運営等を行う株式会社ロピア（以下、「ロピア」という。）との共同開発によるS

M改装モデル店の改装を8店舗で実施しリニューアルオープンいたしました。なお、不採算店舗等対策としてSM店5店舗の閉店及びホームセンター売場10箇所の閉所を進めてまいりましたが、改装、閉店及び閉所に伴うセール価格の想定外の値引きにより売上高が減少したこと、加えて改装及び閉所によるアナジー効果により客数が減少したことなどから売上高及び客数が減少した結果、予想を下回る657億81百万円となりました。

また売上総利益は、円安等による原材料価格及び仕入原価の上昇等もある中、SM販売商品の生鮮の精肉・鮮魚においては、ロピアの加工センターから当社の全店舗へ供給の拡大を促進し、青果においては、ロピアと共同で親会社の子会社（以下、「グループ子会社」という。）から当社の全店舗へ供給を拡大し、安定供給及び原価低減を進めてまいりました。また、グロッサリーにおいては、グループ子会社からのロピアのプライベート商品の直接仕入の拡大を促進し、ロピアとの商品仕入先の共有等による商品仕入先等の見直しを継続して進め、利益改善等に取り組みましたが、原材料価格及び仕入原価の上昇への対策等のタイムラグ、閉店に伴うセールやリニューアルオープンセール等により減少、販売費及び一般管理費は、店舗オペレーションの再度の見直しによる作業効率の改善と標準化を進め、徹底した経費節減に取り組みましたが、売上高及び売上総利益の未達から営業利益（△は損失）は△27億56百万円、経常利益（△は損失）は△26億87百万円とともに予想を下回る結果となりました。なお、地位継承等に伴う固定資産売却益及び資産除去債務戻入益を特別利益に2億26百万円計上し、店舗閉店等に伴う固定資産除却損及び店舗閉鎖損失並びに「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗に係る減損損失を特別損失に2億55百万円計上したことにより、当期純利益（△は損失）は△27億90百万円と予想を下回る結果となりました。

なお、2024年10月15日付で公表しました「中期経営計画の見直し及び業績予想並びに配当予想の修正に関するお知らせ」（以下、「当中期経営計画」という。）に記載しました2026年2月期以降の計画につきましては、当事業年度の実績を踏まえ当中期経営計画の見直しを検討しており、当中期経営計画を基本として黒字化できるよう取り組んでまいります。

今後、合理的な算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

### 3. 剰余金の配当について

#### 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2024年10月15日)	前期実績 (2024年2月期)
基準日	2025年2月28日	同左	2024年2月29日
1株当たり配当金	0円00銭	0円00銭	0円00銭
配当金の総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

#### 決定の理由

当社は、将来の事業展望と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様に対して適正かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。

また、当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本方針としております。

2025年2月期の配当につきましては、2025年4月14日開催の当社取締役会において、4期連続して当期純損失となりましたので、2024年10月15日付でお知らせしましたとおり、誠に遺憾ながら無配とさせていただきますことを決議いたしました。

以 上